

模擬保育における授業評価や映像が省察に与える影響

Effects of Evaluation and video on reflection in simulated childcare

中川 希望（函館大谷短期大学）Nozomi NAKAGAWA

要 約

本研究は、保育者養成校における保育者志望学生が受講する科目である「子どもの健康と遊び」の選択授業において、模擬保育を3～4人のグループを組み60分間の模擬保育を行った。また、模擬保育後に模擬保育の自己評価、他者評価のデータや実際の模擬保育映像を視聴し授業の省察を行い、評価や映像を見ることが省察にどのように影響を与えるのか明らかにすることを目的として研究を行う。

その結果、以下に示す3点が示唆された。

- 1) 模擬保育評価・自己評価、映像視聴後では、動画視聴後の記述数が、「教師行動」・「教材課題・教具」、「授業展開」ともに増加しており、自己評価・模擬保育評価だけでなく、映像視聴での振り返りを行った方がより詳細に振り返りが行われていた。
- 2) 「教師行動」、「教材課題・教具」、「授業展開」の項目ごとの記述の内容について、「肯定」、「否定」、「主観理由」、「客観理由」の4つに分類を行った結果、「教師行動」・「教材課題・教具」の「否定」における記述数が、映像視聴後に増加しており省察が促されていた。
- 3) 模擬保育評価後の「教師行動」における記述は、主観的な記述が多いのに対し、映像視聴後の「教師行動」では、「否定」などの批判的省察が促された。

キーワード 模擬保育 運動遊び 省察 保育者養成

1.はじめに

変化が急速で予測が困難な時代にあって、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようになることが求められている（文部科学省、2018）。

そのため、①「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）、②「何を学ぶか」（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）、③「どのように学ぶか」（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）、④「子供一人一人の発達をどのように支援するか」（子供の発達を踏まえた指導）、⑤「何が身に付いたか」（学習評価の充実）、⑥「実施するために何が必要か」（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）、などの6点を改善するとともに、カリキュラムマネジメントが求められている（文部科学省、2018）。

つまり、それぞれの幼稚園において、幼児期にふさわしい生活をどのように展開し、どのような資質・能力を育むようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていく、「社会に開かれた教育課程」の実現が重要となることが示されており（文部科学省、2018），それらを実現するためには、保育者の専門性が求められる。

他方で、これまで体育科の教員養成大学においても、中央教育審議会（2006）によれば、「教育課程の質の向上」の「基本的な考え方」について、大学の学部段階の教職課程が、教員として必要な資質能力を確実に身に付けさせるものとなるためには、何よりも大学自身の教職課程の改善・充実に向けた主体的な取組が重要である。」とし、体育科教育では体育に関する教師の「資質能力」の育成を目的とし、体育科関連科目の授業方法やその効果について、実証的な研究が積み重ねられてきた（井村・木原、2012）。

例えば、藤田・岡出ら（2011）は、教員養成課程の体育模擬授業における教師経験の意義について省察に着目し、省察の変容について研究を行ったほか、福ヶ迫・阪田（2007）が行った授業省察力を育成する模擬体育の効果に関する研究などである。

保育士・幼稚園教諭養成校の領域「健康」においても、模擬保育を行い指導技術や実践力を高めることをねらいとして研究が行われている。

例えば、保育者養成校における授業研究については、模擬保育は単なる実習に向けての練習機会として行うだけでなく、学習者らが立案した保育案を様々な角度から研究できる稀有な体験ができる機会として機能していることが明らかにされており（高橋ら、2020），また、大平（2020）は、運動遊び模擬保育に取り組んだ学生が抱く不安、停滞や混乱を伴う困難感、学びに影響する要因を明らかにした研究において、①幼児マネジメント技術の習得機会、②建前を本音で語れるような指導、③よき理解者（支援者）による学習への深いアプローチが必要であることが指摘している。しかし、実際の授業の中で授業評価の結果や映像をフィードバックし省察された実践研究は少ない。

そのため、本研究では、模擬保育後に自己評価、他者評価を行い、それらのデータ・実際の模擬保育授業画像などのフィードバックを行い、授業の省察にどのように影響を与えるのかを明らかにすることを目的として研究を行った。

2. 目的

本研究は、保育者養成校における保育者志望学生が受講する科目である「子どもの健康と遊び」の選択授業において、模擬保育を3～4人のグループを組み60分間の模擬保育を行った。模擬保育後に模擬保育の自己評価、他者評価のデータや実際の模擬保育映像を視聴し授業の省察を行い、評価や映像を見ることが省察にどのような影響を与えるのか明らかにすることを目的として研究を行った。

3. 方法

- (1) 期間：令和2年10月12日～令和3年2月2日
- (2) 対象：H短期大学こども学科2年生
「子どもの健康と遊び」履修者28名

(3) 授業概要

科目名：こどもの遊びと健康

単位 1 単位（演習）

担当者：中川希望

表1 2020年「こどもの遊びと健康」授業展開

| 授業計画 | | | |
|------|-----------------------|----|-----------------------|
| 1 | ガイダンス | 9 | 発表① 3歳（リレー・走運動・ボール遊び） |
| 2 | 発表① 3歳（リレー・走運動・ボール遊び） | 10 | 発表② 3歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） |
| 3 | 発表② 3歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） | 11 | 発表③ 4歳（リレー・走運動・ボール遊び） |
| 4 | 発表③ 4歳（リレー・走運動・ボール遊び） | 12 | 発表④ 4歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） |
| 5 | 発表④ 4歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） | 13 | 発表⑤ 5歳（リレー・走運動・ボール遊び） |
| 6 | 発表⑤ 5歳（リレー・走運動・ボール遊び） | 14 | 発表⑥ 5歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） |
| 7 | 発表⑥ 5歳（縄跳び・マット遊び・鬼遊び） | 15 | 発表⑦ 異年齢あそび・まとめ |
| 8 | 発表⑦ 異年齢あそび | | |

| | |
|--------|--|
| 授業概要 | 健康教育の重要性や必要性の理解を深め、乳幼児が自発的に活動することのできる環境構成を構成する力を身につけると共に、運動遊びの安全な援助法や指導法を学ぶ。 |
| 到達目標 | 運動遊びの計画・実践・評価を行い、実践の評価視点を身につけると共に、子どもたちが夢中になって遊ぶ環境の設定について実践を通して学ぶことを目的とする。 |
| 授業の方法 | 運動遊びの計画を立て模擬保育を行う。また、他者の模擬保育を幼児役として参加し、模擬授業の評価を行う。 |
| 予習・復習等 | |

表1で示すように、H短期大学では、「こどもの健康と運動遊び」が開講されている。「こどもの健康と運動遊び」は、1)幼児体育の遊びの模擬保育を行う上で必要最低限の知識の提供,2)模擬保育の提供,3)分析・評価データに基づいたリフレクション以上3つをコンセプトとして授業をおこなった。

模擬保育では、3～4名でグループを形成、60分の模擬保育を設定した。また、模擬保育では、受講学生が必ず1回教師役(以下、T1)を経験し、同じグループのT1でない先生役の学生についても、一緒に援助、言葉掛け、準備等に参加する形で行った。

さらに、模擬保育終了後には、自己評価他者評価を行い、すべての班の模擬保育終了後に、表2・表3に示した、グループの自己評価（表2）、模擬授業評価（表3）を項目ごとにチャートにしたものを作成し、グループごとに配布し省察を行い、その後、模擬保育映像を視聴、再度自己評価・省察を行った。

表2 自己評価結果

| | 模擬授業授業者自己評価アンケート1班 | 平均 |
|---|---------------------------------|---------|
| 1 | 運動発達を促すプログラムの立案指導ができる | 3.33 |
| | 2 こころの発達を促すプログラムの立案指導ができる | 3.33 |
| | 3 運動指導に入る前の立案指導ができる | 3.33 |
| | 4 技能を正しく評価できる | 3.00 |
| | 5 子どもの心の変化を正確に把握できる | 3.33 |
| | 6 幼児に応じて運動指導に適切な子重視度ができる | 3.67 |
| | 7 幼児に応じて運動指導の段階が適切である | 2.67 |
| | 8 運動指導に適切な接客ができる | 3.33 |
| | 9 適切な位置にいて子どもの様子を観察できる | 3.33 |
| | 10 適切な報酬ができる | 3.33 |
| 2 | 1 子どもに対する教育の内容が多い | 3.00 |
| | 2 声の大きさや高さがちょうどよい | 3.67 |
| | 3 話すスピードがちょうどよい | 3.67 |
| | 4 施設のタイミングで聞き方が丁度よい | 3.67 |
| | 5 子どもに対する接客が丁度よい | 3.33 |
| | 6 子どもの開けっ口やしゃべり姿勢が適切 | 4.00 |
| | 7 立ち原稿読みの適切さある | 3.67 |
| | 8 子どもの開けっ口やしゃべりの豊かさある | 4.67 |
| | 9 子どもの身体的距離が丁度よい | 3.00 |
| | 10 子どもの身体的距離が丁度よい | 3.33 |
| 3 | 1 用意の安全を自らにチェックし危険を回避できる | 3.33 |
| | 2 墓所、廻路、天井等の危険性を含むチェックし危険を回避できる | 2.67 |
| | 3 子どものお隣なり行動を事前に予測し回避できる | 3.00 |
| | 4 運動実施面で確認確認できる | 3.00 |
| | 5 危険防止のため見守り体制を整えることができる | 3.67 |
| | 6 子どもに接触が甘いと判断し適切な行動ができる | 3.33 |
| | 7 子どもに対して安全指導や安全教育ができる | 3.67 |
| | 8 運動指導時に怪我が起きた時適切な行動ができる | 3.67 |
| | 9 子どもの体調を察する前兆 | 3.67 |
| | 10 自己管理が徹底している | 5.00 |
| | | 平均 3.46 |

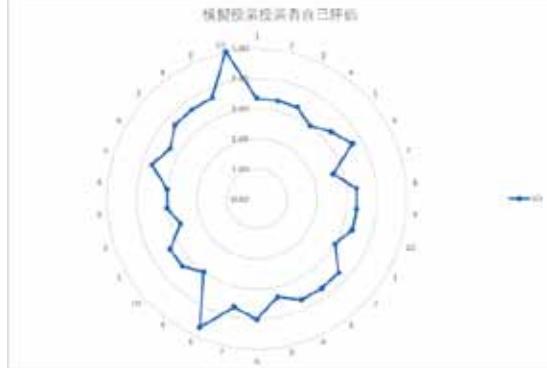


表3 模擬保育評価結果

| 令和2年 模擬保育評価アンケート集計結果 6班 | | |
|----------------------------|------------------------------------|-------------|
| NO | 項目 | 平均 |
| 1 | ほめたり励ましたり積極的にした | 4.56 |
| 2 | 心を込めて関わったか | 4.67 |
| 3 | 適切な援助・励まし | 4.72 |
| 4 | ねらいを生み出す援助や励まし | 4.33 |
| 5 | 道具や効果的に活用された | 4.50 |
| 6 | 楽しして遊ぶことができる遊びの用意 | 4.78 |
| 7 | 園児が夢中になつて遊んでいた | 4.78 |
| 8 | 園児の歡声が見られたか | 4.72 |
| 9 | 園児から笑顔やあざわら | 4.67 |
| 10 | 模擬保育のスムーズさ | 4.72 |
| 11 | 移動や待機時間は少ないか | 4.22 |
| 12 | ホールが守られていたか | 4.11 |
| 13 | 園児がどの様な体験をしてどんな力を伸ばしかわいいかわかる保育だったか | 4.33 |
| 14 | 園児同士が積極的に関わったか | 4.67 |
| 15 | 園児の成長していく姿は見られたか | 4.33 |
| 16 | 良い模擬保育だったか | 4.89 / 4.66 |

模擬保育評価アンケート集計結果

| 項目 | 平均 |
|------------------------------------|-------------|
| ほめたり励ましたり積極的にした | 4.56 |
| 心を込めて関わったか | 4.67 |
| 適切な援助・励まし | 4.72 |
| ねらいを生み出す援助や励まし | 4.33 |
| 道具や効果的に活用された | 4.50 |
| 楽しして遊ぶことができる遊びの用意 | 4.78 |
| 園児が夢中になつて遊んでいた | 4.78 |
| 園児の歡声が見られたか | 4.72 |
| 園児から笑顔やあざわら | 4.67 |
| 模擬保育のスムーズさ | 4.72 |
| 移動や待機時間は少ないか | 4.22 |
| ホールが守られていたか | 4.11 |
| 園児がどの様な体験をしてどんな力を伸ばしかわいいかわかる保育だったか | 4.33 |
| 園児同士が積極的に関わったか | 4.67 |
| 園児の成長していく姿は見られたか | 4.33 |
| 良い模擬保育だったか | 4.89 / 4.66 |



模擬授業を映像で確認



4. 分析データ

2020年度H短期大学で開講されている「こどもの健康と遊び」の全9回の模擬保育終了後に受講生が行った模擬保育後に振り返りを行い、自己評価結果・模擬保育評価結果後、映像視聴後それぞれ、授業の振り返り記入したシートについて分析を行う。

なお、データの信憑性を保つために、授業評価シートを毎回提出した27名、54枚に限定した。

5. 分析方法

自己評価結果・模擬保育評価結果後、動画後に記入したリフレクションシートについて、まず、「教師行動」、「教材課題・教具」、「授業展開」の3つのカテゴリーに分類を行った(吉崎, 1967)。その後、「肯定的評価」、「否定的評価」、「主観的理由」「客観的理由」に分類を行い、Excel2016を用い記述数について単純集計を行った。

6. 結果・考察

表4で示した授業内容における模擬保育後の自己評価の平均では、授業後に行った授業内容に関する評価の、「運動発達を促すプログラムの立案指導ができる」、「こころの発達を促すプログラムの立案指導ができる」、「技能を正しく評価できる」、「状況に応じて運動課題を設定できる」、「運動指導場面で適切な援助ができる」、「適切な位置にいて子どもの様子を観察することができる」、「適切な模範ができる」の項目において授業後より模擬保育評価・映像評価後の自己評価が上がっており、「運動指導に入る前に準備ができる」、「子どもの心の変化を正確に把握できる」、などの2つの項目においては、授業後より模擬保育評価・映像評価後の自己評価の方が低下していた。

また、表5の教師行動における模擬保育後・模擬保育評価・映像評価後の自己評価の平均では、「子どもに対する発言の内容が多い」、「声の大きさが丁度よい」、「子どもと関わりで表情が豊かである」、「子どもとの身体的な距離が丁度よい」の3つの項目において、授業後より模擬保育評価・映像評価後の自己評価において平均が低下しており、表6においても、「用具の安全を事前にチェックし危険を回避できる」、「場所、用具、天候等の危険性を入念にチェックし危険を回避できる」、「危険防止のための見守り体制を整えることができる」、「子どもに対して安全指導や安全教育ができる」、「運動指導中に怪我が起きてても適切な行動ができる」、「子どもの体調を事前に確認」、「自己管理が徹底している」の項目において、授業後より模擬保育評価・映像評価後の自己評価に平均が低下していた。

表4 授業内容における授業後・評価後の自己評価の平均

| | 項目 | 授業後 | 評価後 | |
|----|-------------------------|------|------|---|
| 1 | 運動発達を促すプログラムの立案指導ができる | 3.19 | 3.26 | ↑ |
| 2 | こころの発達を促すプログラムの立案指導ができる | 3.11 | 3.19 | ↑ |
| 3 | 運動指導に入る前に準備ができる | 3.22 | 2.89 | ↓ |
| 4 | 技能を正しく評価できる | 2.96 | 3.15 | ↑ |
| 5 | 子どもの心の変化を正確に把握できる | 3.26 | 3.22 | ↓ |
| 6 | 状況に応じて運動指導に適切な援助ができる | 3.41 | 3.33 | ↓ |
| 7 | 状況に応じて運動課題を設定できる | 3.11 | 3.07 | ↑ |
| 8 | 運動指導で適切な援助ができる | 3.33 | 3.37 | ↑ |
| 9 | 適切な位置にいて子どもの様子を観察できる | 3.37 | 3.56 | ↑ |
| 10 | 適切な模範ができる | 3.44 | 3.59 | ↑ |

表5 教師行動における授業後・評価後の自己評価の平均

| | 項目 | 授業後 | 評価後 | |
|----|---------------------|------|------|---|
| 1 | 子どもに対する発言の内容が多い | 3.30 | 3.07 | ↓ |
| 2 | 声の大きさや高さがちょうどよい | 3.43 | 3.33 | ↓ |
| 3 | 話すスピードがちょうどよい | 3.33 | 3.41 | ↑ |
| 4 | 発言のタイミング間の置き方が丁度よい | 3.07 | 3.07 | - |
| 5 | 子どもに対する視線が丁度よい | 2.93 | 3.37 | ↑ |
| 6 | 子どもとの関りでゼスチャーや姿勢が適切 | 3.22 | 3.56 | ↑ |
| 7 | 立ち居振る舞いが適切である | 3.33 | 3.52 | ↑ |
| 8 | 子どもとの関りで表情が豊かである | 3.65 | 3.52 | ↓ |
| 9 | 子どもとの身体的距離が丁度よい | 3.44 | 3.41 | ↓ |
| 10 | 子どもとの身体接触が適切である | 3.3 | 3.22 | ↓ |

表6 環境における授業後・評価後の自己評価の平均

| | 項目 | 授業後 | 評価後 | |
|----|------------------------|------|------|---|
| 1 | 子どもに対する発言の内容が多い | 3.30 | 3.07 | ↓ |
| 2 | 声の大きさや高さがちょうどよい | 3.43 | 3.33 | ↓ |
| 3 | 話すスピードがちょうどよい | 3.33 | 3.41 | ↑ |
| 4 | 発言のタイミング間の置き方が丁度よい | 3.07 | 3.07 | - |
| 5 | 子どもに対する視線が丁度よい | 2.93 | 3.37 | ↑ |
| 6 | 用具の安全を事前にチェックし危険を回避できる | 3.22 | 3.56 | ↑ |
| 7 | 立ち居振る舞いが適切である | 3.33 | 3.52 | ↑ |
| 8 | 子どもとの関りで表情が豊かである | 3.65 | 3.52 | ↓ |
| 9 | 子どもとの身体的距離が丁度よい | 3.44 | 3.41 | ↓ |
| 10 | 子どもとの身体接触が適切である | 3.3 | 3.22 | ↓ |

表7 模擬保育評価・映像後のリフレクション記述数

| 模擬保育評価後 | | | | | 映像後評価後 | | | | | |
|---------|----|----|----|----|--------|----|----|----|----|-----|
| | 肯定 | 否定 | 主観 | 客観 | | 肯定 | 否定 | 主観 | 客観 | 計 |
| 教師行動 | 10 | 22 | 9 | 8 | 49 | 20 | 56 | 9 | 7 | 92 |
| 教材課題・教具 | 12 | 13 | 4 | 0 | 29 | 4 | 22 | 3 | 8 | 37 |
| 授業展開 | 10 | 20 | 14 | 6 | 50 | 8 | 20 | 3 | 0 | 31 |
| N | 32 | 55 | 27 | 14 | 128 | 32 | 98 | 15 | 15 | 160 |

表7は、模擬保育評価・映像後のリフレクション記述数について表したものである。模擬保育評価・映像視聴後では、模擬保育評価・映像視聴後の記述数は「教師行動」・「教材課題・教具」、「授業展開」ともに増加しており、「教師行動」については、模擬保育後よりも、映像視聴後の方が2倍の記述量となっていたほか、「教師行動」、「教材課題・教具」、「授業展開」の項目ごとの記述の内容について、「肯定」、「否定」、「主観理由」、「客観理由」の4つに分類を行った結果、特に、「教師行動」「否定」と「教材課題・教具」、「否定」の記述数が、模擬保育評価後より映像視聴後の方が、記述数が増加していた。

表8、表9は授業の模擬保育授業評価後と映像視聴後の教師行動の記述である。模擬保育評価後の記述は、「大きくはきはきとした声で話したり、スムーズに進めることを意識したりして取り組んだ。」などの主観的な記述が多いのに対し、動画視聴後の教師行動では、「保育者が前に出ているとき、子どもたちが静かに座っている状態だと指示が通りやすい。」などの、具体的な状況への省察へと変化している。

表8 評価後教師行動記述

| |
|--|
| 大きくはきはきとした声で話したり、スムーズに進めることを意識して取り組みました。 |
| 説明をするときの伝わりやすい言葉選びが難しくて、ほんとの子どもたちだったらしっかり伝わっていたのかなと思ったので、言葉や、身振り手振りでわかりやすいように伝えたいと思いました。 |
| 「ほめたり励ましたり積極的にした」「心を込めて関わったか」「適切な援助・励まし」の項目の評価が高く、子どもとの関わり方が適切にできていたことが分かった。 |

表9 動画映像後教師行動記述

| |
|---|
| 保育者が前に出ているとき、子どもたちが静かに座っている状態だと指示が通りやすい |
| 良かった点はT1が主に活動を進めているときに、T2.T3が次の活動の準備行ったり、消毒を行ったりできていたのが良かったと思います。 |
| 鬼ごっここの鬼だとわかる目印になるものを準備していなかったのをとっさにあるもので代用したりできていたのは良かった点だと思います。 |
| 第三者の目線から観察することで、生徒（子どもたち）全体の動きや、自分が主体となって遊びを促している時の自分以外の保育者2人がどんなことをしていたかが見えてとてもわかりやすかったです。 |

7.まとめ

本研究は、模擬保育における、自己評価、他者評価、実際の映像を観察した後に省察を行い、評価や映像を見ることが省察にどのような影響を与えるのか明らかにすることを目的として研究を行い、以下の3点が明らかになった。

- 1) 模擬保育評価・自己評価、映像観察後では、映像観察後の記述数が、「教師行動」・「教材課題・教具」、「授業展開」とともに増加しており、自己評価・模擬保育評価だけでなく、映像観察での振り返りを行った方がより詳細に振り返りが行われていた。
- 2) 「教師行動」、「教材課題・教具」、「授業展開」の項目ごとの記述の内容について、「肯定」、「否定」、「主観理由」、「客観理由」の4つに分類を行った結果、「教師行動」・「教材課題・教具」の「否定」における記述数が、映像観察後に増加しており省察が促されていた。
- 3) 模擬保育評価後の教師行動における記述は、主観的な記述が多いのに対し、映像観察後の「教師行動」では、「否定」などの批判的省察が促された。

8.引用・参考文献

- 1) 文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説
- 2) 中央教育審議会（2006）今後の教員養成・免許制度の在り方について（答申）
- 3) 井村潤・木原成一郎（2012）小学校教員養成における体育科関連科目の授業改善に関する事例的研究、体育科教育学研究 27 (1) : 11-28
- 4) 藤田育郎・岡出美則・長谷川悦示・三木ひろみ（2011）教員養成課程の体育科模擬保育における教師経験の意義についての検討 - 授業の「省察」に着目して - 体育科教育学研究 27 (1) : 19-30
- 5) 福ヶ迫善彦・坂田利弘（2007）愛知教育大学保健体育講座研究紀要 32
- 6) 桐川敦子・櫻木真智子・黒澤寿美・望月久也・森田陽子・梁川悦美（2018）模擬保育形式の授業における学生の体験
- 7) 吉崎静夫（1967）授業研究と教師教育（1）-教師の知識研究を媒介として-
- 8) 高橋一夫・山口香織・久保木亮子・塩津恵理子（2020）保育者養成における模擬保育の意義に関する考察(3) 教職課程・実習支援センター研究年報 3
- 9) 大平誠也（2020）幼児期の運動遊び指導における学生の困難感と学びの実際 関西国際大学研究紀要 第21号